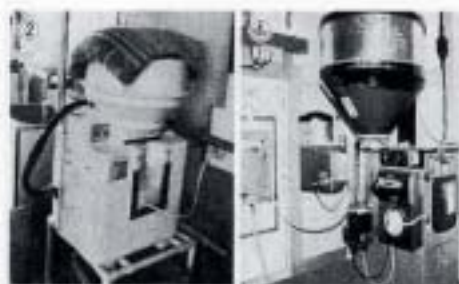


## 自動哺育システムの 利点と留意点

(一) 自動哺育システムについて  
 哺育期における疾病防止のため、カーフハッチによる個体飼育が一般的です。



自動哺育システム

も大きいといえますが、反面、個体毎に飲乳量を確認する必要があるため、子牛に異常があった場合には、早期の処置が必要です。

② スターターの早期採食  
 スターターの摂取量は、群哺育した子牛のほうが食い込みが良いと言われます。導入時から群として採食することで、他の牛につられて採食する傾向が考えられます。

③ 代用乳の少量多給  
 一日の合計給与量は同じでも、自動哺育システムでは、少量多回給与により、消化器官への負担を

とは、哺乳作業を自動化し、子牛を群で管理する飼養方式です。

### (二) 自動哺育機の機種

現在使用されている機種は二種類で、機種により哺乳回数や性能が異なります(表一)。

代用乳を給与するシステムは、ほぼ同じで哺乳プログラムを設定し給与回数と給与量を日齢に応じて設定できますが、代用乳の濃度設定は機種により異なります。

個体識別は電子式タグにより登録された給与量、給与回数だけ代用乳を飲むことができ一回の哺乳量は五〇〇ccとなっています。また薬剤添加も機種により個体毎に設定できます。

### (三) 自動哺育システムの利点

色々な利点が考えられますが、主な点は以下のとおりです。

① 自動化による作業の省力化が最

減らし、食餌性下痢を減らす効果が考えられます。

また常に満腹状態では無いため、スターターの食い込み開始が早まり、飲水・スターターの摂取量も多くなる事が考えられます。

④ 導入・離乳時における濃度調整  
 導入・離乳時にあわせて代用乳の濃度を調節するため、無理なく馴致することができます。

⑤ スムーズな群飼育への移行  
 哺育期から群飼育のため離乳後のストレスが少なく離乳後の発育が高い傾向にあります。

表一 各機種の概要

機 種	写真① ヨーロッパ製	写真② アメリカ製
型 式	スタンダードローン	キャトルロード
機 能	代用乳調合装置1台 ドリンクステーション2台	代用乳調合装置1台 ドリンクステーション1台
哺育可能回数	25-30回×2頭	30回
個体識別装置	首輪	イヤークラップ
薬剤添加装置	オプションで付属	なし
乳 首	可動式	固定式
哺乳プログラム	3通り	10通り
代用乳濃度	日齢毎に設定可	1通り
哺乳サイクル	1:00-10:00に開始 設定、01:00に終了	日または24時間サイクル
分 別 給 与	2-99%	最大99%
1 回 哺 乳 量	0.5ℓ毎に任意決定	0.5ℓ固定

### (四) 自動哺育システムの留意点

自動哺育機導入の目的は、単に自動化・機械化することではありません。代用乳を飲みたいときに確実に飲めることが重要です。また経済効果と施設投資額とのバランスを考えることはもちろんのことです。

#### ① 疾病の発生と感染

自動哺育機による群飼育では、一頭でも疾病が発生すると、群全体に蔓延する危険性があります。

② 発育のバラツキ  
 食い込みの良い子牛ほど早く増

体するので、個体差が今までよりも大きくなる傾向にあります。特に発育不良牛への対応が重要ですが、多回給与のため食欲の減退など分かりづらく、個体差が大きくなって初めて気づくことが多いため早期の対処が重要です。

#### ③ ドリンクステーションの占有化

ドリンクステーションは、弱い子牛が邪魔をされないように一頭分になっていきます。一方に入っている子牛が占有し、他の子牛が時間内に飲めない場合には介助する必要があります。